

建設業に働く女性を対象とした研修会
～「もっと女性が活躍できる建設業」に向けて～

日時：平成29年1月24日（火）13:30～15:30

場所：グランテラス富山 緑風（講演会）・清風（グループワーク）

内容：①開会挨拶 労務経営委員会 大愛副委員長

- ・講師の稲田さんは、他業種ではあるが女性リーダーとして活躍されている。
- ・本日の講演も素晴らしいテーマを決めていただいた。
- ・皆さんには、本日の講習を有意義な時間にしていただきたい。

②講演

テーマ 「建設業に働く私が、なりたい自分に近づいていく」

講師 (株)インテック業務管理本部 北陸業務部長 稲田 恵子 氏

○女性社員の集まりとして、本日の研修会がひとつの出発点になればと思う。

グループワークも含め、皆で一緒に考える時間にしていただきたい。

○経歴、仕事内容紹介

- ・入社当時、男女雇用機会均等法が施行され、初任給の性差がなくなった。
- ・本社事務から子会社の営業へと大きな異動があった。そこで、利益を出すことの大変さを知ることができ、貴重な機会となった。
- ・子会社の社長を任じられた際、一度は断ったが、社長から「推薦した人も責任をもって推薦している。それを引き受けなくてどうする」と言われ覚悟を決めた。
- ・社長になったあと、本社の常務から「売り上げよりも、女性の社長として会社を良くするために、良い会社とは何かを考えて仕事をしなさい」と言われた。

○女性の年齢別労働力（国内の推移、海外との比較）、女性管理職比率

- ・昔は結婚や出産を迎える20代半ばの退職が多かった。現在は共働き等が主流で曲線は緩くなっている。それでも海外に比べるとまだ低く、管理職も少ない。

○女性活躍推進法、行動計画

- ・仕事と家庭のバランス、男性中心の社会など、女性特有の悩みがある。そうした環境を打開し、女性が活躍しやすくするのは経営者の役割。
- ・女性は男性と違う何かを持っている。それを活かす仕組みが必要。
- ・人口が減少する中では男性だけではやっていけず女性の力が必要とされている。
- ・企業のビジネス戦略は転換期を迎えている。新しい流れをつくるには、女性の力が必要ということを皆さんにも認識いただきたい。

○富山県における建設業の現状（女性比率、女性技術者数）

- ・全国平均と比較しても、富山の建設業における女性の比率は高い。全体で見ると高齢者の比率が高く、若者の比率が低い。
- ・女性や若手が活躍することは企業価値を高めることになる。業界へさらに女性や若者を呼び込むために、仕事のやりがいなどを情報発信してほしい。

○女性が建設業に入ることによってどうなるか

- ・建設業で女性が活躍することのメリット、いいことは何か、考えてほしい。
- ・長く勤めるためにも、自分に何かあった時に相談できる人を作してほしい。（上司は自分を評価する相手なので、それ以外で）
- ・経営者や上司の視点で考えることが必要。上の立場の人がどう考え判断するかを想像しておく、自分がその立場になった時に役に立つ。
- ・上に相談するときは、3つほど選択肢を持っていくとよい。上も判断しやすい。
- ・考えの違う相手を否定するのではなく、その考え方を受け止めることがリーダーには必要。

③グループワーク：テーマ「建設業を志す女性や若者を増やすために何をするか」

※発表順

Iグループ

- ・建設業は、休みが少なく危険で汚い仕事というイメージがある。
- ・それらの環境の改善には、休みを増やすことと現場の環境を充実させることが必要。

Hグループ

- ・高校や大学への求人をする際には、範囲を広げて普通科へのPRも行うことが大切。
- ・テレビCMを増やし、広くPRをする。(企業・建設業協会ともに)

Gグループ

- ・休日を取りやすい環境を会社も現場も含めて整える。
- ・協会企業が子育てサポートを充実し、くるみんマークを取得することで、働きやすい業界をPRできる。

Fグループ

- ・若者向けにスマホ向けのHPを開設しPR。
- ・採用時の企業説明で若手や女性も参加。現状は男性役員だけが参加しているため、男性中心の業界だと思われる。
- ・女性同士のつながりを大切にしていることをPR。
- ・女性のポスターをつくるなどして、活躍をPR。
- ・女性も働きながら(男性と同様に)資格を取得して活躍できることをPR。

Eグループ

- ・女性の求職者が少ない。女性が働きやすい、コミュニケーションを取りやすい職場だということをPRすることが重要。貴重な女性入職者へのサポートが大切。
- ・男性と張り合うのではなく、女性ならではの目線を大切に仕事をしていく。
- ・作業着を女性らしくおしゃれに。

Dグループ

- ・働く女性の不満を1つ1つ解消していくことで、男女問わず働きやすくなる。
- ・トイレ掃除は女性の仕事だと思われる。そうした性差・意識を解消したい。
- ・休日出勤・残業の改善には、受発注者の相互理解や工夫が必要。
- ・土木も建築も具体的に何をしている仕事なのかが知られていない。仕事内容を分かりやすくPRし、建設業の仕事内容の知名度を上げる。
- ・特に土木。テレビなどで特集してもらい分かりやすく伝える。

Cグループ

- ・ものづくりの魅力、完成後の達成感・喜びがこの仕事のポイント。
- ・小学生の遠足などで現場を紹介し、小さいころから慣れ親しんでもらう。
- ・現場に定点カメラを設置し、構造物ができあがるまでを動画にしてHP等で公開する。
- ・協会加盟企業を順番に紹介するようなテレビCM。
- ・残業は、発注スケジュールや工期も要因のひとつ。発注者の理解と改善が必要。

Bグループ

- ・現場は汚いイメージがある。現場周辺に花を植えたり、トイレをきれいにするなど見える箇所の環境改善を図り、イメージアップを図る。

Aグループ

- ・最近の若者は休みを重視し、給与はそこそこで構わないという人が多い。
- ・休日の改善。特に休日は発注者の配慮が必要。給与も、業界全体で底上げが必要。
- ・男社会のイメージが強い。実際に女性が活躍しているロールモデルを広く発信し、女性が実際に働いた時にどういった感じなのか想像できるようにすることが大事。
- ・現場見学は、普通科の生徒も対象にしてはどうか。

まとめ 稲田講師

- ・大きく、広報PRと経営・就業環境に関する意見が出た。
- ・工場の見学がツアーになり観光になっているのと同じように、建設現場でも「こんなにすごい仕事をしているんだ」という部分を見せるのはいい方法。

- ・定点カメラの動画をHPに載せるのも面白いアイデアだと思う。
- ・そうした広報に女性が介在することで、女性の魅力・仕事の魅力の両方を向上させていけるかもしれない。

- ・合同企業説明会などの採用の現場には、ぜひ女性も出向いて学生とコミュニケーションを取っていただきたい。人事や総務ではなく、女性の皆さんが現場を紹介することで、女性の力、建設業の魅力を伝えられると思う。
- ・専門課程の学生や生徒だけではなく、その他の学科にもPRすることは大切。
- ・休日や残業、給与、評価や昇進などの改善もPRに繋がる部分。働きやすい環境を学生にアピールすることができる。
- ・今の学生はスマホ世代。ホームページをスマホ向けにすることは、若者へのPRに繋がると思う。

- ・「えるぼし」や「くるみん」の取得を推進することは、企業のイメージアップに繋がる。
- ・男性も女性も両方がいて、社会や企業が成り立つ。男性を味方にしながら、さらに皆さんが飛躍するように、今日集まったメンバーで情報を共有していただきたい。